クリニック通信

【医者が大腸がんになっちゃいました】

この度、私自身が病気になってしまいクリニックの診療に関してご面倒をおかけしました。今回のクリニック通信では、お詫びと共に私の病気についてお話をしたいと思います。

実は、１年ほど前から時々便に血が付くようになり、不安を抱いていました。しかし、特段その他の症状がなく、「まあ大丈夫だろう」と忙しさにかまけて検査をせず放置していたところ、11 月のはじめくらいから下腹部が張るように痛くなり、血便も強くなってきたため、不安になって妻の佳代先生に相談して、すぐに大腸の内視鏡検査を受けました。その結果、Ｓ状結腸にほぼ詰まりかけた大きな腫瘍が見つかってしまい、進行性大腸癌と診断されてしまいました（医者の不養生とは正にこのことです）。その後、すぐに国立国際医療センター病院の消化器外科に入院し、精査後、11 月末に外科手術を受けました。優秀な先生の迅速かつ適切な手術のおかげで悪い箇所をきれいに切り取っていただきました。現在も病院に通院加療中です。術後、お腹の痛みが続き辛い時期もありましたが、おかげさまで無事に退院でき、今では口から普通に食事もできるようになりました。

今回、命を長らえさせていただき、支えてくれた方々に深い感謝の念と共に、改めて健康と命の大切さや、命を助ける医療のありがたさ、そして、そこに適切に繋ぐタイミングやきっかけが如何に重要であるかということを改めて感じました。この経験を今後の喜茂別の医療にも生かしたいと考えています。

なぜ私が大腸がんになってしまったのか？その原因は今でも分かりません。しかし、人間年をとれば何かしら病気が出てくるものです。ましてや癌という病気は初期においてはなんの症状もありません。そのため、年に１回の健康診断をお勧めします。全身をくまなくチェックし、もし何かあれば早期に治療することが元気に長生きする一つのポイントだと思います。

皆さんもかけがえのない健康と一つしかない命、くれぐれも大事にして素敵な日々を過ごしていただきたいと心から願っています。

喜茂別町立クリニック　院長
辻　和彦